



令和7年4月 新任教員からのご挨拶

原田 信一 教育創生リージョナルセンター機構長

この度、教育創生リージョナルセンター機構長を拝命しました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

昨今、社会のグローバル化や情報化の進展により、教育を巡る状況の変化も速度を増している中で、教師自身も高度な専門職として新たな知識技能の修得に継続的に取り組んでいくことが求められています。このような社会的変化、学びの環境の変化を受け、令和の日本型学校教育を実現する「新たな教師の学びの姿」として、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ主体的に学び続けること、一人一人の教師の個性に即した個別最適な学びの提供、校内研修等の教師同士の学び合いなどを通じた協働的な学びの機会を確保することが重要となっています。

本機構は教員養成と研修の実現をミッションにしていますが、京都府・京都市教育委員会ほか、京都府下の自治体や学校の方々との連携をさらに深め、教職員や学生のみなさまにとって身近な存在であればと考えています。

今後とも、教育創生リージョナルセンター機構の事業につきまして、より一層のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

榊原 禎宏 教職キャリア高度化センター長

このたび教職キャリア高度化センター長を拝命しました。これから2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

大学にはいろいろなセンターがあるので、センターという言葉そのものには馴染んでいますが、これを「中心的」という意味合いで捉えるとちょっと違和感を否めません。というのは、大学で学生指導を担うとともに研究の単位になっているのは専攻と学科であり、センターが中心的だというのはしっくりこないようにも思われるからです。



そこで、改めてセンターという言葉の辞書で引くと、語源はギリシャ語に求められるようで、その意味は「円を描くための中心点」だったとのこと。なるほど、それが「中心的役割」という意味を次第に帯びるようになったのですね。ならば、この言葉のそもそもの意味に立ち返ってみましょう。本センターは、大学の中心的役割を担うとは言えないかもしれないけれど、それぞれの専攻や学科が、円の一部をなす弧を描くための中心点として、教員養成と現職教員の学びと育ちを支えていること、円の一部をなす弧は、ともすれば中心点を示すことを忘れがちですが、これがあってこそその弧だと言えるでしょう。

学生が安心して学修し、教員の卵として育つためには学校ボランティアから就職支援に至る環境が重要です。また教職に就いてからは、日々の業務で出合う葛藤や困難に寄り添い、生涯にわたるキャリアに触れる校内研修や講演会等を提供することも有益でしょう。こうした直接間接の機会を通じて、長期的に教職を応援するまさに中心点として、本センターがあることを願います。遠慮なく互いのアイデアを出し合い、新たな試みに臨むこの場を、意気高くともに創り出していきましょう。

新体制になった教職キャリア高度化センターを引き続きよろしくお願いします！



「令和6年度スペシャリスト教職支援プログラム」の報告

「令和6年度スペシャリスト教職支援プログラム」を実施しました。本プログラムは、京都府教育委員会と本学の連携事業であり、教職キャリア高度化センターで実施しています。受講者は「教員免許状を有していないが特別免許状の要件を満たすもの」として採用の内定をされた方、またそれに準じた方を対象とし、オンデマンド型研修と対面研修とを組み合わせた研修としています。

オンデマンド型研修動画については、「「人権」について」（京都府総合教育センターとの共同制作）、「カリキュラム・マネジメントの充実」（樋口とみ子 教授）と「GIGAスクール構想と学習者主体の授業」（大久保紀一郎 講師）を視聴しました。対面研修は、令和7年3月1日（土）に実施しました。研修内容は「生徒理解について（特別支援教育の観点から）」（鈴木英太 講師）、「保護者との関わりについて」（西山由美 教授）と「教員としてスタートするにあたって」（吉川孝 教授）でした。受講者の感想には「4月から何をやっていけばいいのかというのをイメージすることができた」、「新たなスタートに不安だった部分が和らぎ、前向きな気持ちになった」「学級経営や生徒への対応の仕方についてじっくり話げできた」など、4月からの教員生活に向けて、前向きに考える機会となりました。

「学び続ける教員へのメッセージ」講演会の報告



教職キャリア高度化センターでは、「学び続ける教員へのメッセージ」と題して、講演会やシンポジウムを行っています。ここ数年は、令和3年1月26日に出された中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」を取り上げ、これをどのように読み解いていけばいいのかを検討してきました。

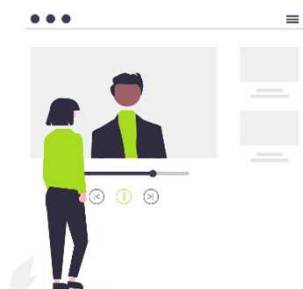
なかでも答申では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の「一体的な充実」が求められていますが、授業において両者を一体的に充実させるとはどういうことなのかについて、昨年度（令和6年度）は「学習者主体」というキーワードに焦点をあてました。

令和7年3月8日（土）午後で開催した講演会では、「学習者主体の授業づくりの理論と実践」というテーマのもと、「学習者の視点」を大切にした授業実践に関わっている渡辺貴裕氏（東京学芸大学教職大学院准教授）をお招きしました。当日は対面形式で、166名の参加がありました。ふだんの授業で行っていることを今いちど「学習者の視点」から問いなおすことの必要性などについて、参加者相互のグループワークも取り入れながら、具体的な事例をもとに考えを深める機会となりました。

先生を究めるWeb講義 配信方法の変更について

多忙ながらも学び続ける教員を支援するための仕組みが「先生を究めるWeb講義」です。動画の長さは様々ですが、15分程度の動画も充実しており、ちょっとした隙間時間に活用することができます。

この、先生を究めるweb講義をリニューアルします。これまで登録制で、お申し込みいただいた方にIDとパスワードを発行し、ログインしていただきご視聴いただく形で運用して参りました。



した。今後は、広く全国で、手軽にご視聴いただくために、YouTubeで一般公開する形に移行します。

また、これまで現場の先生方をメインターゲットとしてきましたが、今後は幅広く、教育を志す方を対象として公開します。学部生や大学院生のみなさんにもご活用いただければと思います。

所属教員

機構長
センター長
センター次長

原田 信一
榊原 禎宏
市田 克利
樋口 とみ子

専任教員

西山 由美
吉川 孝
山下 和美
民岡 薫
米澤 武史
大久保 紀一郎
小山 宏之
相澤 雅文

兼任教員



連絡先

ボランティアオフィス

(月～水・金 10:30～13:30、木 10:30～14:30)

TEL: 075-644-8336

スポーツ指導者養成オフィス

(月～金 10:00～13:00、14:00～15:00)

TEL: 075-644-8143

事務担当

(学術研究支援課研究支援グループ)

TEL: 075-644-8846/8793

お気軽にお越しください♪

